

## 令和元年「特別の教科 道徳」の現状と今後の課題

「道徳の時間」が新たに「特別の教科である道徳」（道徳科）として位置付けられたことにより期待されたことが 3 点あった。

- (1) すべての学校のすべての先生が、同じ程度に道徳教育の重要性を理解し、特に道徳の授業に関心を払い、授業を大切にしていくこと
- (2) 全ての児童生徒に教科書が行き渡り、どこの学校でも同じ程度の道徳の授業ができること
- (3) 評価を適切に行い、それを指導に生かすようになれば、道徳授業が工夫・改善されていくこと

↓ ↓

### 1 教師が求める「道徳」授業の成果（その現状）

- ① 道徳授業の成果として、教師が子供の姿に何らかの変容を求めている気持ちはとてもよく分かる。

↓ ↓

- ② 多くの教師が期待する子供の変容とは、「思いやりのある行動がとれるようになる」「いじめの問題がなくなる」「明るくて素直な子が増える」などであることが多い。

↓ ↓

- ③ これらに対し、私は以下の後藤先生の言葉を伝えている
  - ・道徳授業では子供の生活（指導）上の問題は解決しない。
  - ・道徳授業は子供の 10 年先、20 年先に向けて種を蒔くような気の長いことをする授業。
  - ・せっかく種を蒔いても芽が出ないかもしれないし、花は咲かないかもしれない。
  - ・しかし、『蒔かぬ種は生えぬ』のだから、種は蒔き続けなければならない。種を蒔くのが教師の仕事である。芽を出し、花を咲かせるのは子供の仕事である。
  - ・せっかく蒔くなら上質の種を蒔きたいものだ。
  - ・道徳で「指導したことは子供の身には付かないものだ」と思って指導しよう。
  - ・授業では「教えよう、分からせよう」とせず、子供の声をひたすら「待つ、聴く、受け止める」姿勢を貫こう。

↓ ↓

- ④ これで多くの教師は理解してくれるが、さらに、  
**道徳教育を熱心に行うと、こんな具体的な成果が顕れる。(1 ～、2 ～、3 ～ )**  
というような、期待される「道徳」の成果を示すことができれば、

↓ ↓

「すべての学校のすべての先生が、同じ程度に道徳教育の重要性を理解し、特に道徳の授業に関心を払い、授業を大切にしていく」ようになるのではないか。

↑ ↑

- ⑤ 当然、このことは「道徳科の目標を正しく理解する」ことや「道徳科の目標の共有」があつてできることである。

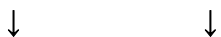
- ・ 期待される「道徳」授業の成果を具体的に示すことができるのは、道徳の校内研究に熱心に取組んでいる「学校」、各区市「教育研究会（道徳部）」、そして、その指導・助言に当たる「講師」だけである。

- ・ 具体的な成果を示すことの「是非」を含めて検討すべきだと考える。

## 2 今後の課題

### (1) 道徳授業（指導方法）の改善

- ① 「特定の価値観を押し付けたり，主体性をもたず言われるままに行動するよう指導したりすることは，道徳教育が目指す方向の対極にあるものと言わなければならない」，「答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の児童が自分自身の問題と捉え，向き合う『考える道徳』，『議論する道徳』へと転換を図るものである。」



- ② 「特定の価値観を押し付ける」などの指導ばかりしてきた教師には，どう指導したらよいか分からない。→ 「議論する道徳」へと転換を図る → どう転換したらよいか分からない。



### ③ 私が考える道徳授業改善の方策

- ・ 「議論する道徳」とは，議論して一つの「正解」を求めることではない。
- ・ 「答えが一つではない道徳的な課題」に対し、「道徳には間違った答えはない」という意味は，話し合いの結末をオープン・エンドにすることではない。（明らかに間違った答えだってある）
- ・ 授業なのだから，一人一人の児童の道徳的価値の自覚を深めることが大切。



- ・ 児童の道徳的価値の自覚を深めるための方策

じっくり考える。自分の考えをもつ → ほかの人の考えに触れ、いろいろな考えを知ることを知る → 自分の考えが発展する（深まる）

- ・ いろいろな考えに出会わせる（物事を多面的・多角的に考える）ための方策

ペアトーク → グループトーク → 学級全体での話し合い

児童の発言を引き出す → 深める 広める → いろいろな考えが分かる構造的な板書

- ・ 授業の後半では，深めた価値の自覚に基づき，自己を見つめ，自己の生き方についての考えを深める学習をする



### ④道徳授業の前に教師が行わなければならないこと

- ・ ねらいとする内容項目の理解 → 学習指導要領解説をよく読む
- ・ 児童の実態を把握する → ねらいに対する肯定的な実態把握が先、実態調査も
- ・ 教材を分析する → 的確な発問構成のために教材分析表を作成する
- ・ 主題名と本時のねらいを考える
- ・ 具体的な発問と指導法を考える → 評価を考える
- ・ 研究授業では指導案を作る過程を大事にする → 教師が「議論する」道徳を
- ・ 「授業はやってみなければ分からない」 → 子供と創る道徳授業に



- ◎ 道徳の研究校や各区市の道徳部員以外の教師、中学校の教師の道徳授業の「質的向上」を図り、すべての学校のすべての先生が道徳の授業に関心を払い、授業を大切にいく。

- ◎ 特別支援学級における道徳授業の在り方を確立すること。

### (2) その他、

- ・ 教科の「正解」に対して、道徳科では「納得解」（学習指導要領解説）と言っているが、いつも説

得方に欠けるように思っている。違う表現はないか。

- ・児童生徒全員が、一人一台タブレットを使った授業が数年の内に一般化する。その場合の道徳授業はどこが変わり、どこが変わらないのか。

これまでの私は、道徳授業を「深める」ことと「広める」ことを中心的に取組んできたが、「道徳の時間」が新たに「特別の教科である道徳」（道徳科）として位置付けられたことで期待される「3つ」のことがとても重要だと考えるようになってきた。今後はこの視点から教員の「養成」と「育成」に力を尽くしていきたい。

以上